

のぞましい家庭教育のしおり

～思いやりの心を育てるものは～

私には忘れられない味があります。それは、次男が初めて一人で作ったカレーライスです。

我が家は夫婦二人ともが働いており、子どもが小さい頃から朝食は家族がそろっていましたが、夜は祖父母の家でご飯を食べさせてもらっていました。なかなか時間をつくってやれないことを申し訳なく思いつつ、できる範囲で、子どもたちのためにできることをするようにしてきました。子どもたちは、そんな両親の姿を見て育ちました。

長男が大学に合格して家を出た頃、思春期を迎えた子どもたちも、いつからか祖父母宅へ行くことを遠慮するようになり、自宅でそれぞれが夕食を準備して済ますようになりました。夫婦ともに忙しく、息子たちと顔を合わせる時間が少なくなっていたある日、帰宅するとカレーライスが作ってあったのです。「どうしたの?」「いやあ、ちょっとやってみようと思って。」それまで料理と言えるほどのことをしたことがなかった次男は、Webでレシピを調べ、家の中にある食材でカレーライスを作ってくれたのでした。これまでに食べたどれとも違う、優しい、何とも言えないおいしいカレーライスでした。「すごくおいしいよ。」そのときの次男の照れたような、少し伏し目がちな表情が、今でも鮮明に思い出されます。



忙しい両親に向けた、彼の『思いやりの心』がその味を作り出していたのだろうと思います。仕事にかまけて満足に関わることができていないと思っていたが、親の姿やそれを助ける祖父母の姿を見て、自分にできることで家族を支えようとする心をもつ人に育ってくれたことを本当にうれしく感じました。『思いやりの心』は、特別なことからではなく、日々の生活の中で少しずつ育っていくものなのかもしれないと思いました。

一人で悩まないで、まず相談を

・刈谷市 子ども相談センター ~子どもに関する相談の総合的な窓口~

月～土曜 9時～17時（国民の祝日・年末年始を除く）

電話相談・来室相談

☎ 0566-62-6313

・愛知県 教育相談こころの電話 10時～22時 ☎ 052-261-9671